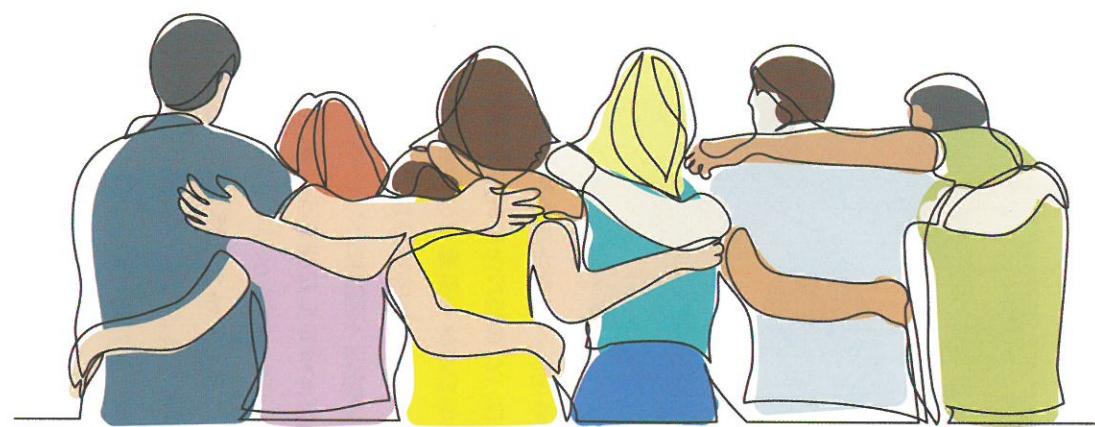


メンターを育てる



メンターという言葉を聞いたことがおりだろう。一般に「経験豊富な人が、特定の分野やスキルにおいて、経験やアドバイスを共有し、指導や支援を提供する人」のことだが、日本で初めて、このメンターを育成するクリスチヤン学校として創立されたのが、クリスチヤンライフ学院（CLI）である。この学院は一般社団法人 Jesus To Japan（二〇一二年四月設立）の傘下の学校である。JTJ宣教神学校と召命を同じくし、同じ建物で開講している。

JTJ 宣教神学校学長
重田稔仁
(しげたとしひと)
1962年鹿児島県奄美大島生まれ。熊本マリスト学園高校卒。成蹊大学法学部卒、グラスゴーバイブルカレッジ（英国）卒、リージェントカレッジ（カナダ）卒。上野の森キリスト教会主任牧師。きよめキリスト教会主任牧師。

る。CLIは、クリスチヤンが他者と個人的な関係を構築するための学びの必要性に応える形で新たに創設された。JTJとCLI両校のカリキュラムは講義内容が重複することなく、広く学ぶことができるようデザインされている。

キリストと結ばれて生きる



リスチヤンとしての成長が見い出せませんでした。

導かれるという経験がないまま、その教会で行き詰まり、教会を離れました。

教会を離れた後、海外の神学校に行き、ピラミッド型ではない教会を経験することになりました。そこでは、サーバントリーダーの学校やコミュニティグループなどで、疑似家族に組み込まれていくんです。そこで行なわれる、毎週の交わりや祈り会。その会では、主任講師が生徒に食事を給仕してくれました。二～三〇〇人の聖書学校でしたが、学生のサポートは、授業の問題に限らず、個人的な事にまで及びました。講師は、自分のクラスを取った学生には、面談を必ず受けるように義務付けていました

た。その時間を利用して、学生の悩みを聞きながら、講師自身の経験から『こういう方向に向かつたら良いよ』と、アドバイスをしてくれました。どのように生きて行つたら良いか、助言をしてくれたのです。

周りの人々と個人的に関わることを通して、一つひとつ気付いて行きました。客観視ができるようになっていきました」と重田師は語った。

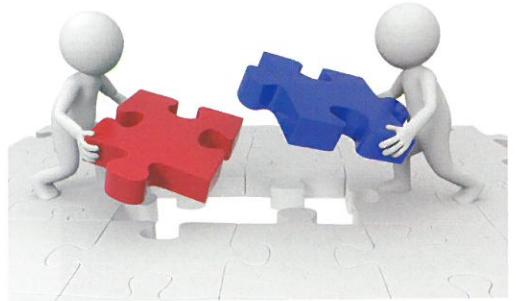
確かに日本の教会はピラミッド型で、上を仰ぐ上下関係になっている。信徒は牧師を「先生」と呼ぶことによって、悩みを打ち明け、庇護してもらい、全てを任せることが出来ると錯覚してしまう。信徒は牧師に悩みを言えるが、逆はない。この関係の中で、対等な水平関係を築くことは難しい。

この学院を始めようと思い立った切っ掛けについて、学院長の重田師にお伺いした。「私のバックグラウンドは、いわゆる伝統的な監督制の教会で、牧師を支える役員会があり、部会があり、それぞれに長がいて、いわゆる、ピラミッド型でした。信仰を持って救われると、その組織に組み込まれていくんです。これが私のクリスチヤン生活のスタートでした。こんな環境で養われていきましたが、奉仕が教会生活の中心になつてきました。集会に参加し、祈り会に出席するなど、分かち合う場所はあったのですが、個人的な人間関係に自分自身のク

牧師と信徒の関係は「縦」

更に重田師は続けた。

「教会の構造の中では、個人的に関わることが難しい。個人的に知つてもらえない



きないかと思ったんです。

私は、私をメンターと呼ぶメンティーが多くいます。個人的に交わって来た人々がいるんです。それを教会の内外でやつてきました。これを、自分自身の経験だけに止めず、職場や教会、家族、そういう環境の中のメンターとして関わっていきたいと思う人々を招いて、教えるのです。授業は、一年次は座学で二年時に実践に入ります。

メンティーとして関わった経験がなければ、メンターにはなっていけません。自分がメンタリングされた経験がなければ駄目なんです。牧師に依存して、牧師に丸投げするような牧会や教会形成ではなく、信徒がそれぞれの賜物の中で、職場、教会、家庭において兄弟姉妹に寄り添いながら、クリスチヤンライフと共に生きていく教会づくりしたいのです」とその思いを語った。

先生と呼ぶ方も、呼ばれる方も、そこに安心感を得る。牧師は、先生と呼ばれることで、自分を立ててもらっていることを認識し安心する。呼ぶ方も、そう呼ぶこと

水平関係で双方向のメンタリング

それに対して、メンターとメンティーの関係は水平関係で、双方向である。そこにフレンドシップが組み込まれていく。これが、メンタリングがカウンセリングやコーチングと決定的に違うところであると言ふ。

カウンセリングは一方通行。何故なら、構造を学院で教えて行こうと考えたのである。こうして始める事になったのだが、「未熟などころも正直あります」と打ち明けた。自分たちがちゃんと刷新されていなければ、露呈するところもあるだろうとうのだ。何故なら、考えが刷り込まれていて、培った文化を消し去るのは甚だ難しいからだ。文化的な指紋みたいなヤツは中々厄介だ。

日本での教会生活の中でこのことを学ぶのは難しい。そのため、先ずその概念とその構造を学院で教えて行こうと考えたのである。そして、双方向な関係なのだ。そこには、必ずフレンドシップを見ることが出来る。メンターとメンティーの関係以外に、このような関係はない。

しかし、これは簡単ではない。我々の精神構造をリセットしないと、それを実現するのは難しい。新しい革袋でなければ新しい葡萄酒を保てないように、古い革袋に継ぎ接ぎをしてしまっても破れてしまう。

「イエスさまと弟子」を考えるとき、日本で「先生と弟子」として受け取られ、上下関係が成り立つてしまふが、イエスさまは「死にそうに苦しい」、「私のために祈ってくれ」と弟子に頼んでいる。これは平行な関係であることを示している。そして、「私はあなたがたを友と呼ぶ」「御心を行なう者は兄弟姉妹である」と言っているように、イエスさまは私たちの兄であり、私たちの友であり、私たちの師である。即ち、これがメンターなのだ、と重田師は言う。

で、先生から「受けるだけ」の立場を確保する。生徒は先生から受けるが、先生には与えない。それで自分を守っている。要するに、両方欺瞞なのだ。信徒は、先生と呼ばれる牧師の痛みや苦しみを解ろうとしても、もし、対等であれば分かち合うだろう。

先生文化に甘えて、「先生は頑張ってね」、「問題は先生が引き受けてね」という構図になっている。と、これが重田師が言わんとする、現在の日本の牧師と信徒の関係である。

関係の刷新を学べ

重田師はこう話し始められた。「しかし、それが神の憐れみによつて、イエスさまとの関係によつて刷新されていくと信じています。イエスさまとの関係が日々刷新されしていくことを通して、友人や周りとの関係が刷新していく。それは比例するんです。メンターとメンティーの関係が刷新していくとの実感が非常に大切です。



私が信徒の多様な課題や悩みの相談を担う教会において、牧会者は多大な心的負担を背負っている実情があります。そこで、クリスチヤンメンターを養成することによって、牧会者のみなならず、召し出されたクリスチヤンメンターが案内人となり、信徒が互いにサポートしあう水平的で双方の関係性を築ける教会を作りたいと思いまし。私はそれを、メンターになりたい人に教えるたいんです。そうすれば、神にもっと有益に仕えることが出来ますからね」と語った。

最終的に教会を立て上げて行く時には、メンターはリーダーの意見に従わなければなりませんが、リーダーと信徒の意見が対立した際には、徹底的に話し合います。しかし、それでも生理的に、または感情的にリーダーの意見をメンバーが受け入れられない場合があります。

例えば、私たちの教会では歌舞伎町の家出少年少女をサポートするミニストリーを始めました。当初、「そんな子供たちを教会に連れてきたら不衛生だ」とか、「誰

重田師は秩序に関しては次のように語った。「支配するための秩序はいらないんですね。人を、教会を、立て上げていくための秩序の原理は愛です。誰に仕えているのかをよく考える必要があります。『この岩の上に、私の教会を立てる』とイエスさまは仰いました。

秩序の原理は愛

が責任を取るのか」という意見が数人の方々から寄せられました。そのため、中々ミニストリーが進みませんでした。そのような意見の対立の中でも、私はミニストリーに否定的な教会のメンバーに『イエスさまはどうしたんですかね?』と。娼婦の女性のもてなしを、イエスさまがお受けになつたことや、誰も近づかない、悪霊に憑かれた人に、イエスさまは近づいて行かれたことについて触れ、「僕らはキリストの体であり、福音を宣べ伝えていく者ですね、イエスさまがここにいたら、どうされますかね?」と語りかけました。やがてゆっくりではありますが、みながミニストリーに前向きになつていきました。今、申し上げたプロセスは面倒臭いですし、ものすごく時間が掛かります。私たちの場合、ミニストリーが実際に実行に移されるまで、半年かかりました。しかしそれがメンタリン

教会では、一度結んだ関係が刷新されるというのをあまり聞きません。イエスさまが「あなたを見捨てない」と言つて下さることは決して変わりませんが、関係は変わることです。そのことが中々解らない。若い頃に、誰でもそんな経験をしている筈です。暴走族同士で殴り合つたけれど、ヘトヘトになるまで殴り合つた後、友達になるなんてことが。関係は変わるんです。互いに自分をぶつけ合う中で、不思議と棘が無くなり関係が変わっていくことがよくあるんです。

しかし、残念ながら、クリスチヤンはぶつかるとみんな去つて行つてしまします。サヨナラなんです。関係の刷新を経験しない今まで。関係が刷新されることや、育むことの醍醐味を知らない。つい先日もある人とぶつかって、その人が私をずっと無視して避けているので、『気分を害したなら僕が謝るから。何が問題だったのか言つてくれ』と頼んでも、その理由を言わない。理解しない。それは、関係が刷新されることを経験したことがないから、解らないん

「ところで、重田さんはメンターをお持ちで、重田さんはメンターをお持ちといふ事です。信託を受けたよりも、本当は牧師に学んでもらいたいのですが、自分たちは知つてゐると思つてゐる方が多いですよ」と、少し悔しそうにそう言つた。

人にではなく、神に仕える

イエスさまは堪らないでしょう。言い換えれば、イエスさまは、ずっと赤ちゃんを抱えているようなもんです。赤ちゃんが何時までも同じ状態のままだったとしたら、イエスさまは堪らないでしょう。信託を受けたように、信託の本當に必要な成長するはずなんです。そんなことも、メンターとメンティーの関係の中で学んでもらいたい事です。

信託を受けたよりも、本当は牧師に学んでもらいたいのですが、自分たちは少しだけ悔しそうにそう言つた。

「自分で糧を得てミニストリーをするようにな」と、牧師になりたての頃に先輩の牧師から言われていました。当時は『そんなこと無理だ』と、同意できなかつたんです。

それが、六〇歳になつた今、やつと分かりました。日本のキリスト教全体が、神ではなく人に仕えているように感じます。

多様化する現代社会を背景に、牧会者の

です。それが解らないということは、イエスさまとの関係が刷新されていないということです。

イエスさまと私たちの関係は、私たちがイエスさまにとつて酷い裏切者で、未熟で、罪人、なのです。そんな私たちとイエスさまの関わりの中で、もし、私たちが何時までも同じ状態のままだったとしたら、

しかし、多くの牧師が信徒に仕えています。もちろん、信徒の本当に必要なことのために牧師が仕えるのは良いことで、牧師が信徒の顔色を窺い、心理的な縛りを持つては問題です。しかし、多くの牧師は、そのことを認識しています。

それから自由になれないんですね。

しかし、多くの牧師が信徒に仕えています。もちろん、信徒の本当に必要なことのために牧師が仕えるのは良いことで、牧師が信徒の顔色を窺い、心理的な縛りを持つては問題です。しかし、多くの牧師は、そのことを認識しています。

メンターを育てる目的

クリスチャンメンターとは、キリストを真のメンターとして仰ぎ、御言葉と御靈により御父に導く助言者、指導者であり同伴者である、と重田師は言う。そして、キリストを真のメンターとして仰ぐクリスチャンメンターが寄り添い、助言し、時に精神的なサポートを行うことを「メンタリング」、サポートを受ける側は「メンティー」と呼ばれ、メンターはメンティーと個人的な（互いに知り、知られる）関係を通して、メンティーがキリストと結ばれて生きられるようサポートしていく。メンターはメンティーの案内人であると同時に、時に人生の友として、共に真のメンターであるイエス・キリストに聞き従うのだ、と語った。

道先案内人としてのメンターとの交わりによつて、メンティーは神さまとの友情を深め、恐れから解放され、愛のイニシアチブを取れる者へと造り変えられるという

鑽に努める、とのことである。

父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛してきた。わたしの愛にとどまりなさい。わたしが父の掟を守り、その愛にとどまっているように、あなたがたも、わたしの掟を守るなら、わたしの愛にとどまっていることになる。

（ヨハネ一五・9～10）

牧師は尊い働きである。イエスの花嫁である教会を立て上げようと、命を投げ出し、全身全霊で孤軍奮闘している。そう、「孤軍奮闘」しているのである。「宣教命令」は、牧師のみに与えられた命令ではない。イエスを信じる全てのクリスチヤンに課せられた命令である。であるならば、我々は同士だ。共に働く友であり兄弟姉妹なのであるから、互いに助け合い共に担い合う関係ではないか。牧師が信徒と違うところは、その情熱において、また神からの召命においてである。

ことなのだろう。CLLIのクリスチヤン・メンタリングの目的は、メンターとメンティーが共にキリストにあって神の国に生きる喜びにあずかり、その喜びを分かち合うことにある、と師は考える。

重田師は学院案内の中で、当学院が目指すところを以下のようして説明している。

「CLLIの学びは三位一体の神さまと私たちの関係、また私たちと隣人（家族や友人、教会の兄弟姉妹、職場の同僚等）との関係の探究に焦点を当てています。それはイエス・キリストがクリスチヤンに授けられた最大の賜物が、隣人の良き理解者として共に祈り、寄り添い、支援することに他ならないからです。多くの授業では、自分史、家族史、教会史、企業史、クリスチヤン靈性史に目を向けています。それは根底にあるイエス・キリストの礎を見ると同時に、基盤に内在する制度的或いは世俗的因素にも時に客観的に洞察する視点を養う必要があるからです。」

クリスチヤンメンター士の資格

クリスチヤンメンター士の定義を「キリストの福音に生きる隣人の友となり御靈によって助け励ます素養を身につけた者」としている。

クリスチヤンメンター士は、一般社団法人Jesus To Japan（クリスチヤンライフ学院）の所有する登録商標6741072号である。接尾辞の「士」は「仕える」という意味を含み、「クリスチヤンメンター」と組み合わせることで「クリスチヤンメンターとして仕える者」という意味の資格として命名された。CLLIで本科生（フルタイム及びパートタイム）としての学びを修了し、卒業した者のうち、一定の成績を修め、最終試験（学院での学びを範囲とする）に合格した者に資格が付与される。「クリスチヤンメンター士」は「クリスチヤンメンター士会」の会員として相互に継続的研究



QR

牧師も信徒も共に神を見上げているならば、神は必ず知恵を示し、和解を与えてくださる。重田師が言うように、「秩序の原理は愛」であるからだ。メンターを育てることが、日本における宣教と教会の立て上げに大きく貢献することを期待したい。

学院についての詳細は、左記のQRコードからご確認ください。